

練馬区立旭町小学校 学校だより 6月号 令和元年5月31日発行 校長 道山 正史



# きらめく風

ホームページ

携帯サイト



すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## 東京オリンピック

校長 道山 正史

先日、やっと東京オリンピックのチケットの抽選申込をしました。申込が終わるまで、何回かやり直し、やっとのことで申込完了の画面が出てきたときには、思わずため息をついていました。興味がある競技をすべて申し込むと、あっという間に数十万円になってしまい、あわててやり直したり、競技を絞り込んだりと、妻の分と合わせて悪戦苦闘の約5時間でした。でも、一生のうちで何回も経験することができないイベントだと思えば、何とか見てみたいと思います。幸運を祈るのみです。

1964年の東京オリンピックは、私がまだ小学校2年生の時でした。そのころ、今から思うと、おそらく導入されたばかりのテレビや記録映画で、100mの決勝やマラソンを見たのを覚えています。そして、私が今でも東京オリンピックで思い出す名前は、ボブ・ヘイズという名前です。もちろん円谷選手も依田選手も遠藤選手もヘーシンク選手も記憶にあるのですが、ヘイズ選手の100m走の圧倒的に力強い走りの映像が、くっきりと思い出されます。8歳の子どもに強烈なインパクトを与えました。その時の記録は、10秒0でした。そのこともはっきり覚えています。当時の世界記録と同タイムということでした。そして、それ以来、オリンピックの花は、なんといっても陸上の100m走だと思えるようになりました。

時代が変わって、今の世界記録は9秒58。ウサイン・ボルト選手です。この55年間で0秒42縮んだことになります（1964年当時は10分の1単位だったので正確に比較はできないのですが）。日本の選手達も、最近、10秒の壁を破ったということで話題になっていますね。桐生選手が9秒98、サニブラウン選手が9秒99。その他にも有望な選手がたくさんいます。100m走も世界と競争できるまでになってきました。それぞれの選手が、0.01秒縮めるために、どれだけの努力をしているか、想像を絶するものがあると思いますが、是非決勝に残って、日本の選手が世界と勝負する姿を見てみたいですね。

考えてみれば、私は一生で2回も夏のオリンピックを自分の国で経験することができます。前のオリンピックを経験していない世代は、もしかしたら今回だけかもしれません。どの国の選手にも大きな拍手が送られる素晴らしい大会にしたいですね。